

各 位

平成 14年 10月 4日

会 社 名 富士通コンポーネント株式会社  
代表者名 代表取締役社長 小野 統造  
(コード番号 6719 東証第2部)  
問合せ先 取締役総務部長 望月 晴夫  
TEL (03) 5449 - 7000

当社の親会社 富士通株式会社  
代表者名 代表取締役社長 秋草 直之  
(コード番号 6702 東証、大証、名証、各市場1部)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 14年 4月 25日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正します。

### 記

#### 1. 15年 3月期連結中間業績予想数値の修正(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 14年 9月 30日)

(単位:百万円、%)

|                                 | 売上高     | 経常利益    | 当期純利益   |
|---------------------------------|---------|---------|---------|
| 前回発表予想(A)<br>(平成 14年 4月 25日 発表) | 22,300  | △ 900   | △ 1,400 |
| 今回修正予想(B)                       | 20,375  | △ 4,000 | △ 4,300 |
| 増減額(B-A)                        | △ 1,925 | △ 3,100 | △ 2,900 |
| 増減率                             | △ 8.6   | -       | -       |
| 前期(平成13年 9月中間期)実績               | -       | -       | -       |

#### 2. 15年 3月期連結通期業績予想数値の修正(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

|                                 | 売上高     | 経常利益    | 当期純利益    |
|---------------------------------|---------|---------|----------|
| 前回発表予想(A)<br>(平成 14年 4月 25日 発表) | 48,500  | 0       | △ 500    |
| 今回修正予想(B)                       | 43,000  | △ 3,900 | △ 4,300  |
| 増減額(B-A)                        | △ 5,500 | △ 3,900 | △ 3,800  |
| 増減率                             | △ 11.3  | -       | -        |
| 前期(平成14年 3月期)実績                 | 46,204  | △ 7,920 | △ 11,382 |

#### 3. 15年 3月期中間業績予想数値の修正(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 14年 9月 30日)

(単位:百万円、%)

|                                 | 売上高    | 経常利益    | 当期純利益   |
|---------------------------------|--------|---------|---------|
| 前回発表予想(A)<br>(平成 14年 4月 25日 発表) | 18,500 | △ 400   | △ 400   |
| 今回修正予想(B)                       | 18,000 | △ 2,000 | △ 7,700 |
| 増減額(B-A)                        | △ 500  | △ 1,600 | △ 7,300 |
| 増減率                             | △ 2.7  | -       | -       |
| 前期(平成13年 9月中間期)実績               | -      | -       | -       |

4. 15年 3月期通期業績予想数値の修正(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

|                                 | 売上高     | 経常利益    | 当期純利益   |
|---------------------------------|---------|---------|---------|
| 前回発表予想(A)<br>(平成 14年 4月 25日 発表) | 39,000  | 0       | 0       |
| 今回修正予想(B)                       | 38,000  | △ 1,900 | △ 7,600 |
| 増減額(B-A)                        | △ 1,000 | △ 1,900 | △ 7,600 |
| 増減率                             | △ 2.6   | -       | -       |
| 前期(平成14年 3月期)実績                 | 16,621  | △ 1,932 | △ 1,952 |

5. 理 由

. 子会社株式評価損

金融商品会計に係る会計基準に基づき、子会社株式会社高見澤電機製作所の株式について、過年度に発生した累積損失の状況から鑑み、当中間期に株式評価損(特別損失)5,665百万円を計上いたします。これによる単独業績における評価損は以下のとおりです。

|           |            |
|-----------|------------|
| ・ 株式評価損の額 | 5,665 百万円  |
| 評価減前の帳簿価額 | 10,660 百万円 |
| 評価減後の帳簿価額 | 4,995 百万円  |

注) 連結財務諸表においては、親会社の子会社株式は子会社の資本金等と相殺消去されます。また、株式会社高見澤電機製作所の累積損失は連結剰余金に取り込まれておりますので、単独決算で発生する評価損は、連結決算では発生しません。

. 連結、単独中間業績予想数値の修正理由

当社の損益の柱である通信用リレー、コネクタは世界的な通信インフラ、海外を中心としたIT投資関連の低迷により、需要が大幅に後退しております。

このような中で、事業構造改革を推進してまいりましたが、効果が後半にズレ込んだことにより、当中間期の損益への貢献にいたらなかったため、今回業績の修正を行うものであります。

下期につきましても、通信用リレーの低迷が続きますが、前期より行っている事業構造改革、経費の大幅削減、生産革新運動による生産効率化および不採算品種の整理等の対策により、業績の回復に努めてまいります。

. 当社では、市場環境の激変に対応し、添付資料のとおり「事業再生のための施策」を実行するとともに、業績の回復を図ってまいります。

(注1) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

(注2) 本リリースは、証券取引法第166条に定められた「重要事実」に該当する情報を含んでおります。本リリースに掲載された情報をご覧になられた場合は、インサイダー取引規制に関する「第一次情報受領者」となり、公開後12時間以内(平成14年10月5日午前2時頃まで)に、当社の株式の売買等を行うことは禁止されますので、ご注意ください。

以 上

(添付資料)

平成 14 年 10 月 4 日  
富士通コンポーネント株式会社

## 富士通コンポーネントグループ事業再生のための施策

2000 年後半から始まった「IT 不況」は、今まで経験したことのない範囲と規模で継続し、更に長期化の様相を呈してきております。当社の損益の柱である通信インフラ用リレー、コネクタは、情報通信市場の急激な需要低下により売上高が大幅に減少するとともに、早期の回復は望めなく、当年度の業績の大幅な悪化は避けられない状況にあります。

当社グループは 2001 年度において、国内拠点の整備、海外製造拠点での人員削減等を行いました。しかし、市況の低迷と環境の変化は当初の予想をはるかに越えたものとなっております。そのため、事業再生のための施策を実行し、上期の業績は大幅な損失計上となる見込みであります。下期（第 4 四半期）には黒字化を実現し、2003 年度は完全な黒字化を達成すべく、強い事業構造を確立しつつあります。

### **[ 事業再生のプロセス ]**

#### 1. 海外拠点のスリム化

##### 販売拠点

アジア / 中国を強化

中国市場を重視し、拠点を上海に移動。販売を拡充

米国、欧州を大幅縮小

米国：デザイン・インとグローバルマーケティングに特化

欧州：当社 SAM マーケットに合わせて縮小

##### 製造拠点

主要製造子会社である FUJITSU COMPONENT (MALAYSIA) SDN.BHD、高見澤（常州）電子有限公司（中国）の赤字解消

間接部門の効率化及び生産性向上で黒字化

2002 年 5 月実施済

今後は一層の収益向上を図る

赤字品種の整理

#### 2. 国内製造拠点のスリム化

##### 国内製造拠点

構造改革の実施

しなの富士通の子会社整理

##### 東京（本社）地区

間接人員の削減

（人員の推移）

|    | 2001 年 3 月 | 2002 年 3 月 | 2002 年 9 月 | 2003 年 3 月 |
|----|------------|------------|------------|------------|
| 国内 | 2,100 名    | 1,687 名    | 1,450 名    | 1,400 名    |
| 海外 | 5,089 名    | 3,588 名    | 3,600 名    | 2,800 名    |
| 計  | 7,189 名    | 5,275 名    | 5,050 名    | 4,200 名    |

## 資産の効率化

### 棚卸資産の削減

| 2001年3月 | 2002年3月 | 2002年9月 | 2003年3月 |
|---------|---------|---------|---------|
| 188億円   | 126億円   | 106億円   | 100億円   |

(90億円削減)

### 不要不動産の売却

遊休資産である栃木工場跡地(烏山)の売却

### 設備投資の効率化

|       | 2000年3月 | 2001年3月 | 2002年3月 |
|-------|---------|---------|---------|
| 設備投資  | 49億円    | 21億円    | 15億円    |
| 減価償却費 | 36億円    | 34億円    | 28億円    |
| 差引    | 13億円    | 13億円    | 13億円    |

## 3. ビジネスユニット制の実施

### <目的>

コンポーネント事業特有の顧客密着型開発に対応するため、当社の開発部長がビジネスユニット長となり、新製品の開発と顧客ニーズへのきめ細やかな対応を図る。

### [今後の商品戦略]

#### ブロードバンドネットワーク市場対応コンポーネントの開発

(基幹通信インフラを含むインターネットバックボーン、イントラネット、LAN、SAN及びサーバ類、家電に至るネットワーク構成要素をターゲット)

#### 銅接続技術の展開

世界標準規格となった当社マイクロギガコネクタ(3.2ギガビット/秒)をサーバを主体とした情報ネットワーク機器向けに拡販、更に5.0ギガコネクタの開発

#### 光接続技術への参入

当社の保有する薄肉精密成型技術をベースにプラスチックフェルールを開発し、光コネクタ市場に参入する。

#### スイッチング技術の応用

既に市場で認知されているサーバコンソールスイッチ(当社SERVISシリーズ)を更に拡充、展開

## 4. その他の損益改善プログラム

### 生産革新運動の推進によるコスト競争力改善

生産性向上、棚卸資産・仕損費・スペースの削減

### 海外部品の採用拡大

### 不採算品種の整理

以上